

オン タイム 音time

野畑小学校 音楽室より

2021.6.2

No.3

学習の様子

◎3年生…楽ふとドレミ

今週から「茶つみ」を歌い始めました。二人組になって手遊びしながら歌うととても楽しいのですが、今はそれができないので、座ったまま、軽く歌うだけにしています。その分、たくさん楽器をさわれたらと思い、合奏を始めました。「春の小川」で階名唱ができるようになったので、そのまま楽器で演奏しています。はじめてさわる楽器も多く、目を輝かせながら練習している姿がとてもかわいらしいです。

◎4年生…ひょうしとせんりつ

「ラバーズコンチェルト」で器楽合奏をしています。今回からドラムと、アコーディオン、そして指揮者のパートが新しく加わりました。指揮者は一人ですが、今後誰がやってもできるように、四拍子の指揮のやり方をみんなで練習しています。一学期の間は、短い曲で、色々な曲を合奏していきます。

◎5年生…オーケストラのみりよく

「名探偵コナンのテーマ」で器楽合奏をしています。合奏の目的として、クラスとしての団結力を高めよう、声をかけ合いながら、助け合いながらクラスみんなの力で完成させていこう、ということ常意識させながら練習を進めています。難しい曲ですが、みんな意欲的に取り組んでいます。

◎6年生…演奏のみりよく

修学旅行に向けて平和学習の取り組みで、平和に関する歌を歌っていたのですが、修学旅行の延期に伴い、一旦お休みして器楽合奏を始めました。クラスごとで、違う曲をやっています。1組・2組は「千本桜」、3組はYOASOBIの「怪物」、4組はずっと真夜中でいいのの「正しくなれない」にチャレンジしています。どの曲もリズムが複雑なので、楽譜だけではなく、iPadで練習用の音源を聴きながら、目と耳と、両方から情報を入れながら練習しています。時間をかけながら丁寧に仕上げていく予定です。

音楽の授業でこれから少しずつ iPad を使っていくため、年度の始めにイヤホンを一一人一個購入しています。必要なタイミングで、随時配布していきます(6年生は配布済みです)。合奏曲の練習用音源を聴いたり、GarageBandという楽曲制作アプリを使ったりします。

音楽委員会の活動

今年もNチューブをやります。Nチューブとは、音楽委員会が企画・運営をする、動画配信イベントです。楽器の演奏やダンスなど、自分の得意なことを動画で撮影し、学校みんなに配信します。今回もたくさんのお応募がありました。今年は2年目なので、子どもたちにはほぼ全ての運営を任せてみました。イベントの告知をする宣伝班、応募者を取りまとめて、撮影スケジュールや、配信のタイムテーブルを組むマネジメント班、動画の撮影をする撮影班、撮影した動画を編集する編集班の、4つの班に分かれて活動しています。今週から撮影班が動き始めています。配信期間は7月12日(月)から一週間を予定しています。

W. D. H～わりと どうでもいい はなし～ 独自の通貨が流通しかけた話

小学生時代、給食の牛乳には紙のキャップがついていました。その紙キャップをひっくり返して遊ぶ「キャップ戦」が、当時大ブームでした。お互いに同じ枚数だけキャップを出し合い、それをひっくり返す、ひっくり返した枚数だけ相手のキャップをゲット!という、メンコのような遊びです。普通のメンコ遊びとは違い、キャップ同士を叩きつけるのではなく、風を送ってひっくり返すという独自ルールがありました。戦いは、両手をパーにして床に叩きつける「ドッスン」、両手を叩き合わせる「パッチン」、片手で大きく一回あおぐ「うちわ」という、主に3つの技を使って行われます。「直接接触れない」「風圧で裏返す」という暗黙のルールに抵触していないギリギリのラインで、キャップに口を近づけて「ぱっ」と言う、「パ」という技もあったのですが、強力すぎる故にそれを使った者はしばらく白い目で見られることは必至でした。

当初、我々の間に流通しているキャップは学校給食で出ている通称「赤キャップ」(白地にオレンジのもの)が全てでしたが、キャップ戦が熱を帯びていくにつれ、それ以外の違う柄のキャップを持ち込む者たちが現れます。「めずらキャップ」(おそらく当時の小学生男子の貧弱なボキャブラリーの中に「レア」という単語はなかったのでしょうか)と呼ばれたそれらのキャップは、その希少さに応じて通常の赤キャップ数枚分の価値がつけられました。この「めずらキャップ」により、クラスのパワーバランスが大きく変わってきます。当時、クラスの人気者と言えば「足の速いやつ」「頭のいいやつ」「面白いやつ」の三強でしたが、この一角に「珍しい牛乳キャップを持っているやつ」という、ニッチなキャラが食い込んでくるのです。

めずらキャップは一種の権威でした。めずらキャップのために給食のデザートを出し出す者、宿題の代行を行う者、帰り道荷物持ちをする者、中には自身のアイデンティティの確立のため、親に頼み込み自宅宅配の牛乳を取り始める猛者も現れました。

珍しいキャップを収集し、交換所を開く者も現れ、その頃にはもはや牛乳キャップはただのキャップではなく、独自の通貨の様相を呈していました。牛乳キャップを中心に一種の小さな社会が形成されつつあったこの一大ムーブメントのさ中でしたが、「牛乳キャップによる風紀の乱れ」という事態を重く見た先生たちにより「キャップ戦禁止令」が発布されます。これによりキャップ戦ブームは一気に終焉を迎え、牛乳キャップは以前の「牛乳のふた」という価値に落ち着いたのでした。おしまい。